

用語の解説

自主財源

町が自主的に調達できる財源のこと

依存財源

国や県から交付されたり、割り当てられる財源のこと

義務的経費

人件費など支出が義務づけられ任意に削減できない経費

投資的経費

道路や施設など将来に残るものに対する経費

その他の経費

施設の光熱水費や事務組合・各種団体に対する経費

まちの借金と貯金

借金（地方債）残高

平成25年度決算額	77億 89万円
平成26年度決算額	76億3,221万円
平成27年度見込額	75億4,005万円

貯金（基金）残高

平成25年度決算額	19億3,546万円
平成26年度決算額	14億6,902万円
平成27年度見込額	15億6,201万円



特別会計

特別会計とは、特定の歳入歳出を一般財源の歳入歳出と区別して処理するための会計です。町には6つの特別会計があります。中でも増減が大きかった会計は、公共下水道事業 27% 増、情報通信基盤施設運営事業 11% 増、緑の村運営事業 10% 減があげられます。

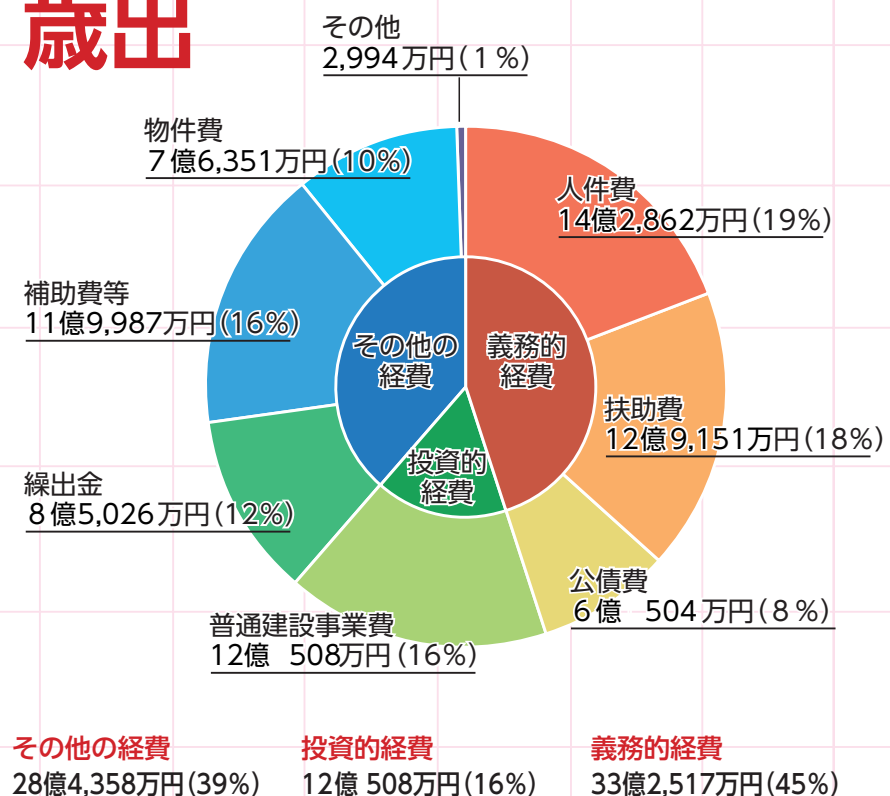
特別会計名	予算額	前年度増減額
国民健康保険事業	28億3,595万円	1,964万円
介護保険事業	17億5,447万円	1,465万円
後期高齢者医療事業	2億 493万円	5万円
公共下水道事業	5億3,906万円	1億1,456万円
緑の村運営事業	1,786万円	-194万円
情報通信基盤施設運営事業	5,588万円	572万円

企業会計

企業会計とは、独立採算による特定の事業を経理する会計です。町には1つの企業会計があります。水道事業会計は、収益的支出 3% 減、資本的支出 11% 増となりました。

水道事業	予算額	前年度増減額
収益的収入	3億4,833万円	-739万円
収益的支出	3億3,133万円	-961万円
資本的収入	2億1,759万円	-6,653万円
資本的支出	3億1,596万円	3,184万円

歳出



平成28年度

当初予算

平成28年度予算が3月議会定例会で可決されました。

73億7,383万円

(昨年度比12%増)

予算の概要

社会保障関係経費の増大や、公共施設の老朽化への対応など、地方財政を取り巻く環境は引き続き、厳しい状況です。国の取り組みからは、地方の一層の歳入・歳出改革、効率化が求められており、自主財源の乏しい本町においては、更に厳しい財政運営を強いられる可能性があります。また、平成25・26年度に実施した緊急経済対策事業で町債が増加したことにより、平成29年度に借金返済にあたる公債費がピークを迎えます。

こうした状況を踏まえ、平成28年度予算編成に当たっては、限りある経営資源の重点的・効果的な活用を図るなど、将来を見据えた戦略的な財政運営に取り組み、町民一人一人の幸せ向上につながる予算編成を行いました。

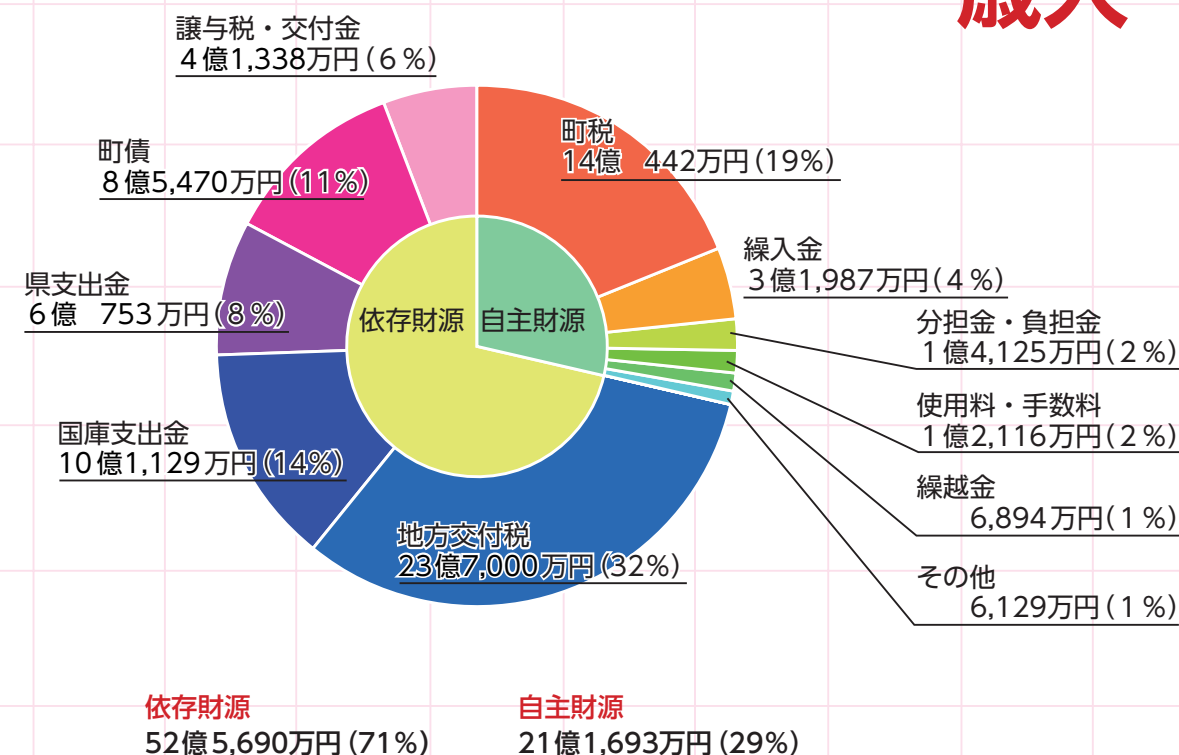
一般会計の概要

一般会計（当初予算）の総額は、73億7,383万円です。前年度（選挙後1号補正分を含む）と比べると12%増（8億3,093万円増）を計上しました。

歳入を見ると、地方交付税が全体の32%を占め、町税19%、国庫支出金14%、町債11%となっています。本町の自主財源は29%と乏しく、国、県に依存していることがわかります。

歳出は、人件費が全体の19%を占め、扶助費18%、普通建設事業費16%、補助費等16%と続きます。主な新規事業は、給食センター建設及び受入施設などの改修事業、上野インターチェンジ（仮称）設置工事委託事業、四宮橋架替工事などを予定しており、既存事業としては、中山間地域等直接支払交付金事業、多面的機能支払交付金事業、地域未来塾などを計上しました。

歳入



依存財源

52億5,690万円 (71%)

自主財源

21億1,693万円 (29%)